

A N Aホールディングス株式会社 説明会

2022年3月期 第2四半期決算

2021年10月29日

代表取締役社長

片野坂 真哉



目 次

1. 2021年度 第2四半期決算

決算概要	P. 4
航空事業・事業別の動向（コロナ前との対比）	P. 5
事業別の取り組み（上期）	P. 6
通期業績予想（修正）	P. 7
旅客需要の前提	P. 8
事業面の対応策（下期以降）	P. 9
コストマネジメント	P. 10
事業構造改革の進捗	P. 11-12
今後の方針	P. 13

2. 2021年度 第2四半期決算（詳細）

業績ハイライト	P. 18
連結決算概要	
経営成績	P. 19
財政状態	P. 20
キャッシュフロー	P. 21-22
セグメント別実績	P. 23
航空事業	
収入・費用	P. 25
営業利益 増減要因	P. 26
ANA国際旅客	P. 27
ANA国内旅客	P. 28
ANA国際貨物	P. 29-31
ANA国内貨物	P. 32
LCC	P. 33
コロナ前との対比	P. 34
ノンエア事業	
航空事業以外のセグメント	P. 35

3. 2021年度 通期業績予想（詳細）

連結業績予想	P. 38
セグメント別 計画	P. 39
航空事業 売上高・営業費用 計画	P. 40
航空事業 営業利益（当初計画との差異）	P. 41
航空事業 営業利益（前年実績との差異）	P. 42
計画前提(ANA旅客事業・貨物事業、LCC)	P. 43-45
<補足資料>	
航空機数	P. 46

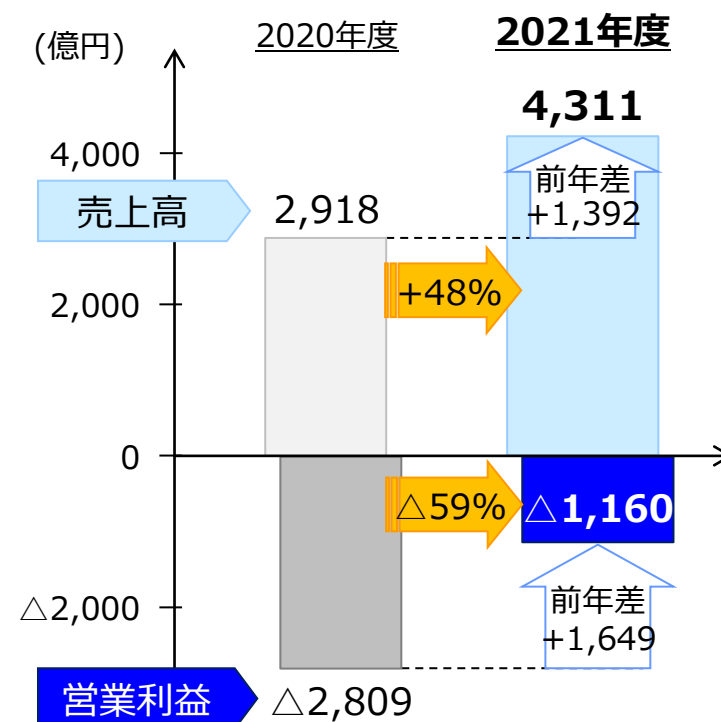
1. 2021年度 第2四半期決算



決算概要

2021年度 第2四半期決算（連結）

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	4,311	+1,392	+47.7%
航空事業	3,702	+1,335	+56.4%
営業費用	5,471	△256	△4.5%
航空事業	4,840	△305	△5.9%
営業利益	△1,160	+1,649	-
航空事業	△1,137	+1,640	-
経常利益	△1,155	+1,531	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△988	+896	-
EBITDA	△375	+1,532	-

売上高・営業利益の前年比較
(上期・連結)

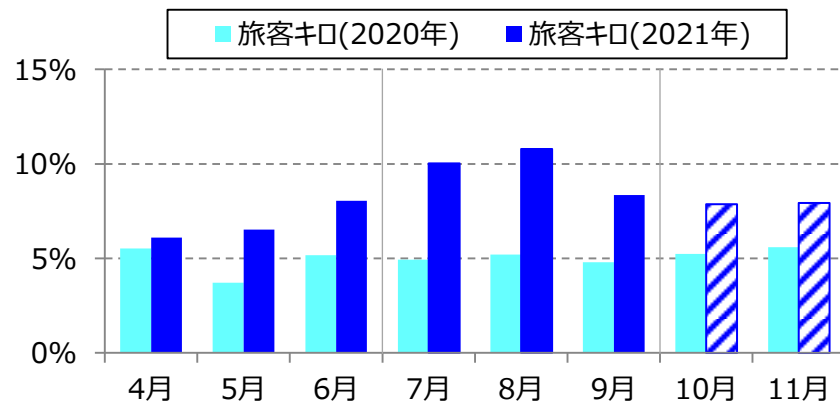
1. 売上高 : 各種の移動制限が続いた中でも、前年から大幅に増加
2. 営業費用 : コストマネジメントの深掘りにより、生産量を拡大した中でも総費用が減少
3. 営業損失 : 前年同期と比べて、1,649億円の改善

航空事業・事業別の動向（コロナ前との対比）

グラフは全てコロナ前の実績(2019年4～11月)との対比、2021年10～11月は現時点の見通し

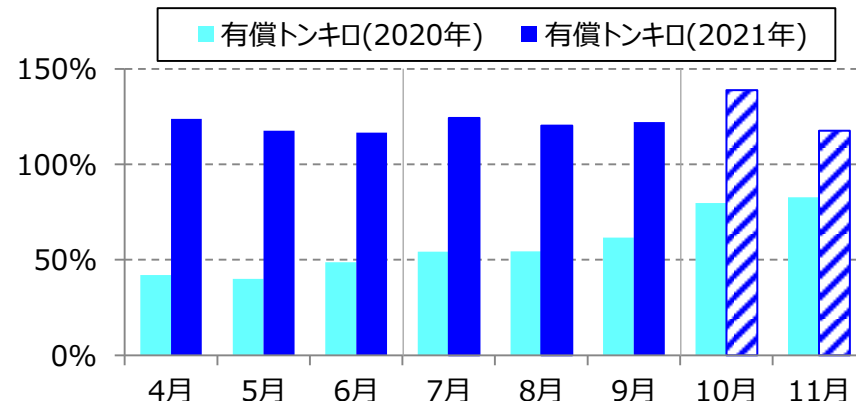
1. ANA国際旅客

東京2020大会の関係者、里帰り需要などを取り込み



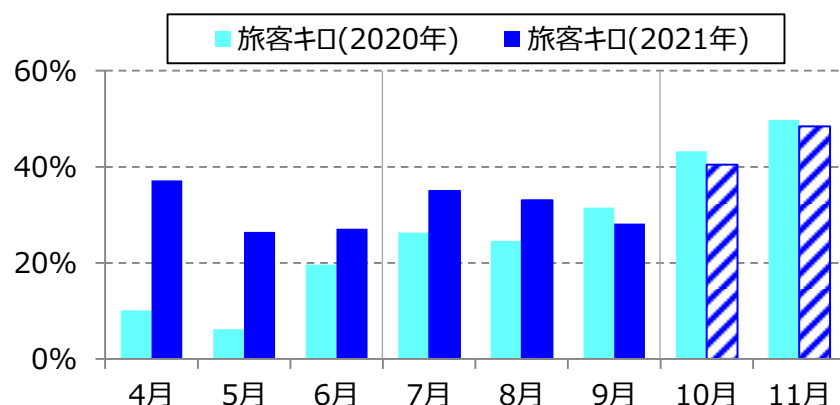
3. ANA国際貨物

生産量を拡大、コロナ前を上回る好調な実績が継続



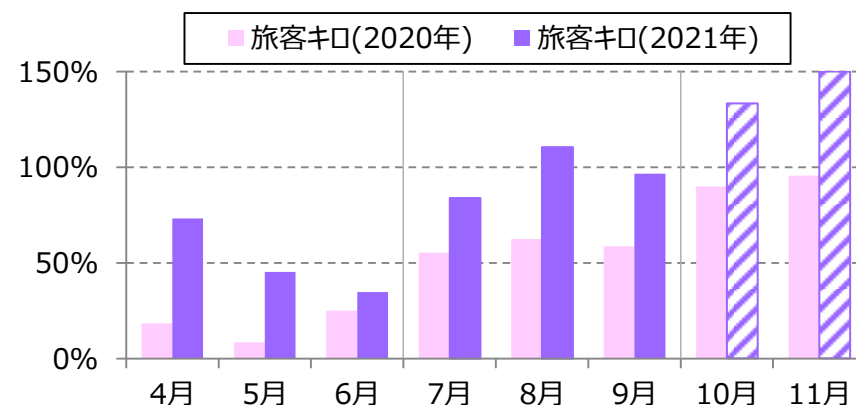
2. ANA国内旅客

「緊急事態宣言」の全面解除により、需要は回復・増加へ



4. Peach国内線

新規就航路線等の効果により、旅客キロはコロナ前水準へ



事業別の取り組み（上期）

	テーマ	具体的な取り組み
ANA	国際旅客	便あたり収入の最大化 7月から旅客便の一部で発着空港を変更（羽田→成田） 貨物需要を優先して運航便を設定
	国際貨物	生産量の拡大 旅客機を活用した貨物専用便の積極的な運航 フレイター就航都市の拡大（B777F:ロサンゼルス、B767F:北京、杭州）
	国内旅客	ユニットレベニューの向上 コロナ禍の搭乗実績に基づいたレベニューマネジメントの強化
peach	LCC	レジャー・VFR*1の取り込み 国内線のネットワークを強化 （2020年度以降に11路線を新たに開設）

*1 Visiting Friends & Relatives

[旅客事業] 収益性を重視して生産量を調整 → 限界利益を最大化

[国際貨物] 需要の取り込みを強化 → 4四半期連続で過去最高の売上高を更新

通期業績予想（修正）

1. 2021年度 通期業績予想の修正（連結）

(億円)	当初計画 (21.4.30)	今回修正 (21.10.29)	当初差	前年差
売上高	13,800	10,600	△3,200	+3,313
営業費用	13,520	11,850	△1,670	△84
営業利益	280	△ 1,250	△1,530	+3,397
営業利益率	2.0%	-	-	-
経常利益	50	△ 1,400	△1,450	+3,113
親会社株主に帰属する 当期純利益	35	△ 1,000	△1,035	+3,046

修正のポイント

1) 売上高

- ①旅客収入の減少
[国際] 入国規制の強化(継続)
[国内]「緊急事態宣言」の延長(上期)

- ②貨物収入の増加
・好調な業績が下期も続く見通し

2) 営業費用

- ・コスト削減を当初計画から深掘り

旅客需要の回復時期が
当初計画から後ろ倒し
→ 通期業績予想を修正

旅客需要の前提

2021年度 上期

2021年度 下期

国内線

緩やかな需要の回復
(「緊急事態宣言」の発出・延長)

ペントアップ需要
行動制限の緩和

本格的な需要の伸長

緊急事態宣言
(東京都)

3回目(57日間) 4回目(81日間)
4/25~6/20 7/12~9/30

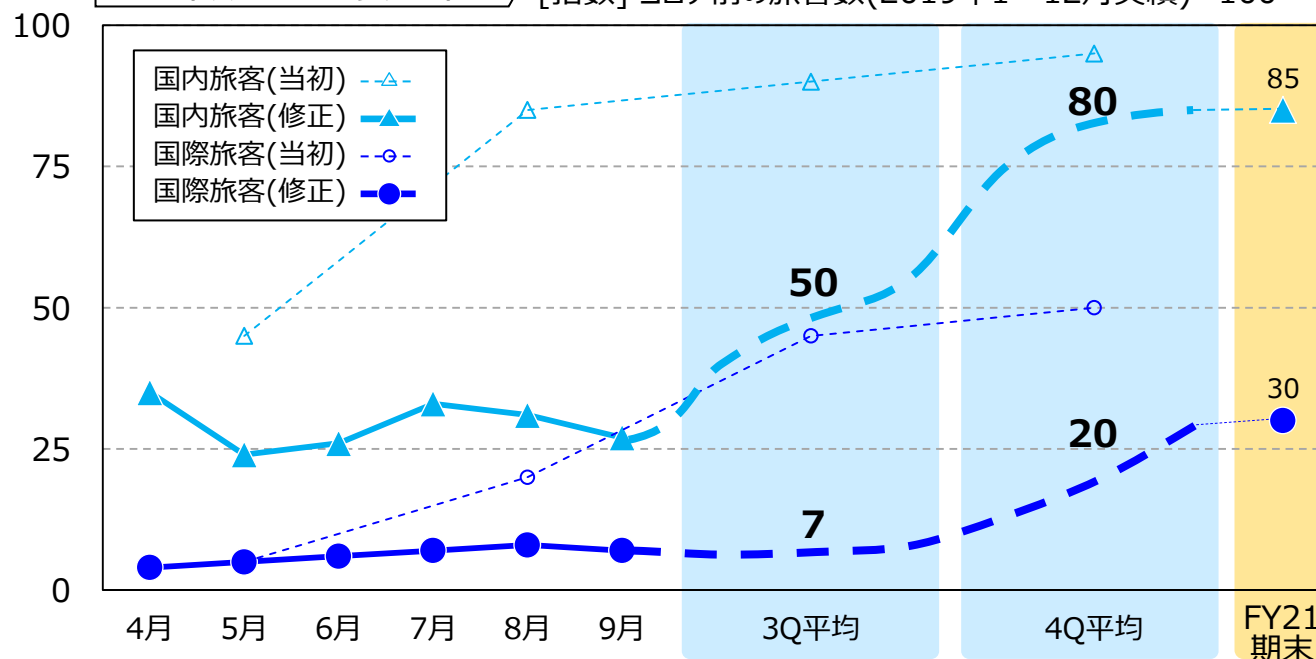
国際線

需要の低迷が継続
(各国の渡航規制・日本政府による入国者数の制限)

世界各国の渡航規制が
段階的に緩和 (想定)

四半期毎の需要水準

[指数] コロナ前の旅客数(2019年1~12月実績)=100



国内旅客(当初)

年度平均:80

国内旅客(修正)

年度平均:45

国際旅客(当初)

年度平均:30

国際旅客(修正)

年度平均:10

*1 本グラフの数値はANAブランドのみ (Peachは含まず)

*2 修正計画の2021年度下期前提は、新収益認識に基づく同一基準で算定

事業面の対応策（下期以降）

テーマ

具体的な取り組み

（航空事業）

需要動向に沿った
機動的な対応

1) ANAとPeachの連携強化

- ① ANA運航便の一部をPeachに移管（小型機で5機相当）※2021年 冬ダイヤ時点
- ② 両ブランド合同による航空ダイヤの策定（2022年 夏ダイヤ分より）

2) 需要回復への対応

- ① 顧客層のターゲットを絞った需要喚起策（行動制限の緩和に対応）

3) 国際貨物の収入最大化に向けた対応

- ① フレイター就航都市の拡大（台北・香港・青島にB777Fを新たに投入）
- ② 旅客機を活用した貨物専用便の積極的な運航

4) 機材

- ① 国際線機材の一部を国内線に転用
- ② 投入機材の小型化を加速（大型機の退役前倒しによる効果）

5) 人財

- ① グループ外出向の継続（10/1時点：累計1,360名）
- ② 多様な働き方を実現する制度の促進（兼業・短時間勤務等）

6) 人員稼働の効率化

- ① [空港] 非対面サービスの推進による省人化
- ② [整備] 整備計画・人員配置の最適化

7) 内製化の拡大（外注費の削減）

経営リソースの
柔軟な調整オペレーション体制の
生産性向上

コストマネジメント

1. コスト削減額

	上期実績 *1	内訳		年度見通し *1
変動費	2,100億円	1,780億円	生産量の抑制	生産量に連動
		320億円		
固定費*2	1,300億円	1,300億円	自助努力による削減 合計△1,620億円	年度当初計画 △3,000億円
				修正計画 △3,150億円
合計	3,400億円			

*1 2019年度実績との比較

*2 雇用調整助成金の受給額を含む

2. 固定費削減の持続性

主な費用	構成比	中期的な見通し	
グループ人件費 その他	約50%	費用削減の効果は次第に減少 (賃金制度の構造改革や生産性向上で増加を抑制)	ユニットコスト 低減
機材関連費用など	約50%	削減効果が恒久措置として持続	

事業構造改革の進捗① 全体像

テーマ

具体的な取り組み

進捗と効果

需要の「量」の変化への対応

1. コロナ禍を乗り越えるための
リソース圧縮

- 1) 機材
 - ①大型機を中心に退役を前倒し
 - ②導入予定機材の受領を先送り
- 2) 人財
 - ①新規採用の抑制
 - ②グループ外出向の拡大
 - ③賃金・一時金の水準見直し

2020年度末までに対応

固定費の減少

↓

損益分岐点の引き下げ
(2021年度から効果が発現)

需要の「質」の変化への対応

2. アフターコロナを見据えた
グループ航空事業モデルの追求

- 1) グループ航空事業のポートフォリオを最適化
 - ①ANAとPeachの連携強化
 - ②第3ブランドの運航開始(2022～2023年度中)
- 2) サービスモデルの改革 詳細はP12

本格的な対応を開始

グループ収益の拡大

ユニットコストの低減

レジリエンスの強化

3. 顧客データ資産を活用した
プラットフォーム事業の確立

- 1) 「マイルで生活できる世界」の実現に向けた
EC販売の強化、サービスの拡充
 - ①旅行事業のデジタルプラットフォーム化
 - ②「スーパーアプリ」を見据えたサービスの提供開始

事業化に向けて準備中

非航空収入の拡大

事業構造改革の進捗② サービスモデルの改革

1. サービスモデル改革の方向性

<アフターコロナの顧客志向>

衛生・清潔、非接触・セルフ、ESG



「顧客満足度」を向上させながら、「事業効率化」を追求

顧客の視点

「ストレスのないスムーズな移動」「また使いたくなる体験」の提供

経営の視点

競争力の強化（顧客の新規獲得・囲い込み、省人化）

2. 顧客体験価値に基づく取り組み

1) 空港 お客様がストレスなくスムーズに「通過」する場所に変革

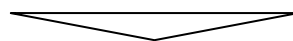
- ① 手続きを「空港外」「セルフ」で完結できる仕組みの導入
（例）インターネットチェックイン比率の飛躍的な向上など
- ② アプリの強化→必要な情報をスマホで提供

2) 機内 個々のニーズに寄り添った「くつろぎの場」を提供

- ① サービスの事前オーダー化（例）機内食・機内販売など
- ② 接客品質のさらなる向上→人的サービスの強化、差別化の加速

3) コンタクトセンター お客様が必要とする情報を「発信」

- ① デジタルツールを活用、あらゆるシーンのお客様を遠隔サポート



サービスモデルの改革

=

デジタル

×

人の力

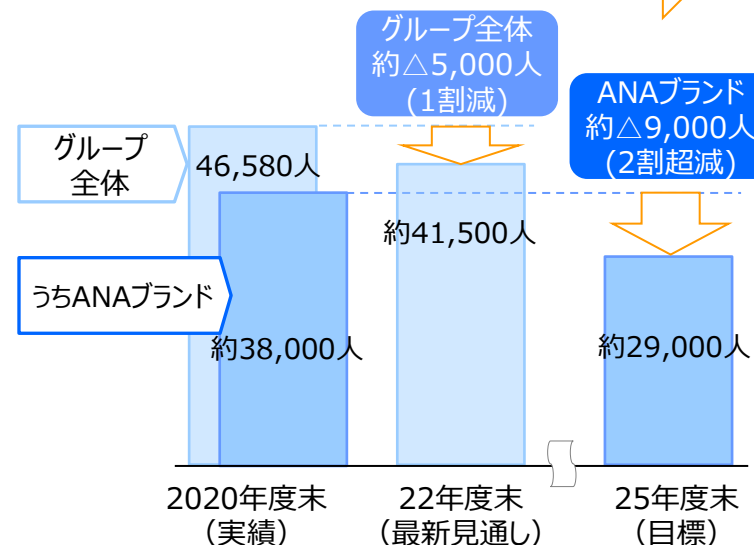
×

顧客データ



収益性の向上

3. 改革による効果

従業員一人あたりの生産性を向上
（人件費の増加を抑制）

今後の方針

コロナ禍

ウィズコロナ

アフターコロナ

基本方針

事業規模を一時的に縮小してコロナ禍を乗り越える

2022年度以降

売上高の増加を加速
(利益水準の拡大へ)

2021年度

売上高の
段階的な回復

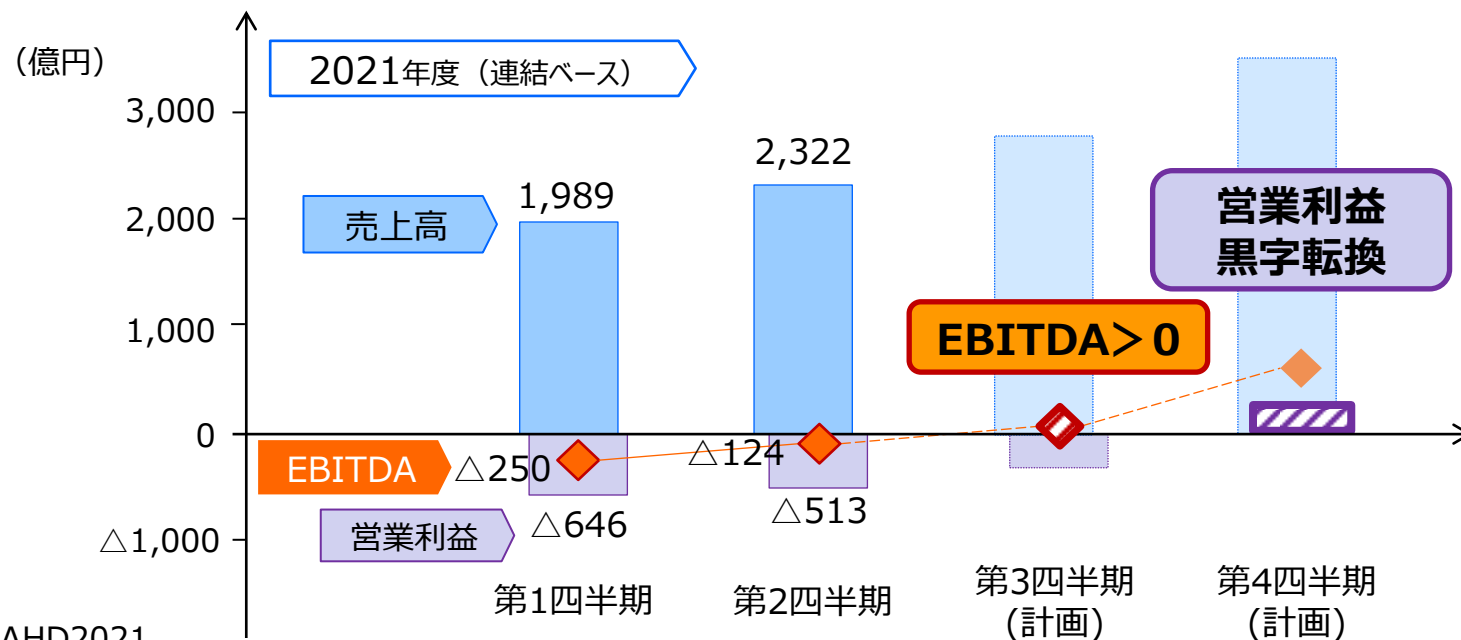
修正計画

着実な業績の改善
(主要なKPIの黒字転換)

2020年度

事業構造改革
(リソースの圧縮)

固定費の削減
(損益分岐点の引き下げ)



Intentionally Left Blank

Intentionally Left Blank

Intentionally Left Blank

2. 2021年度第2四半期 決算（詳細）



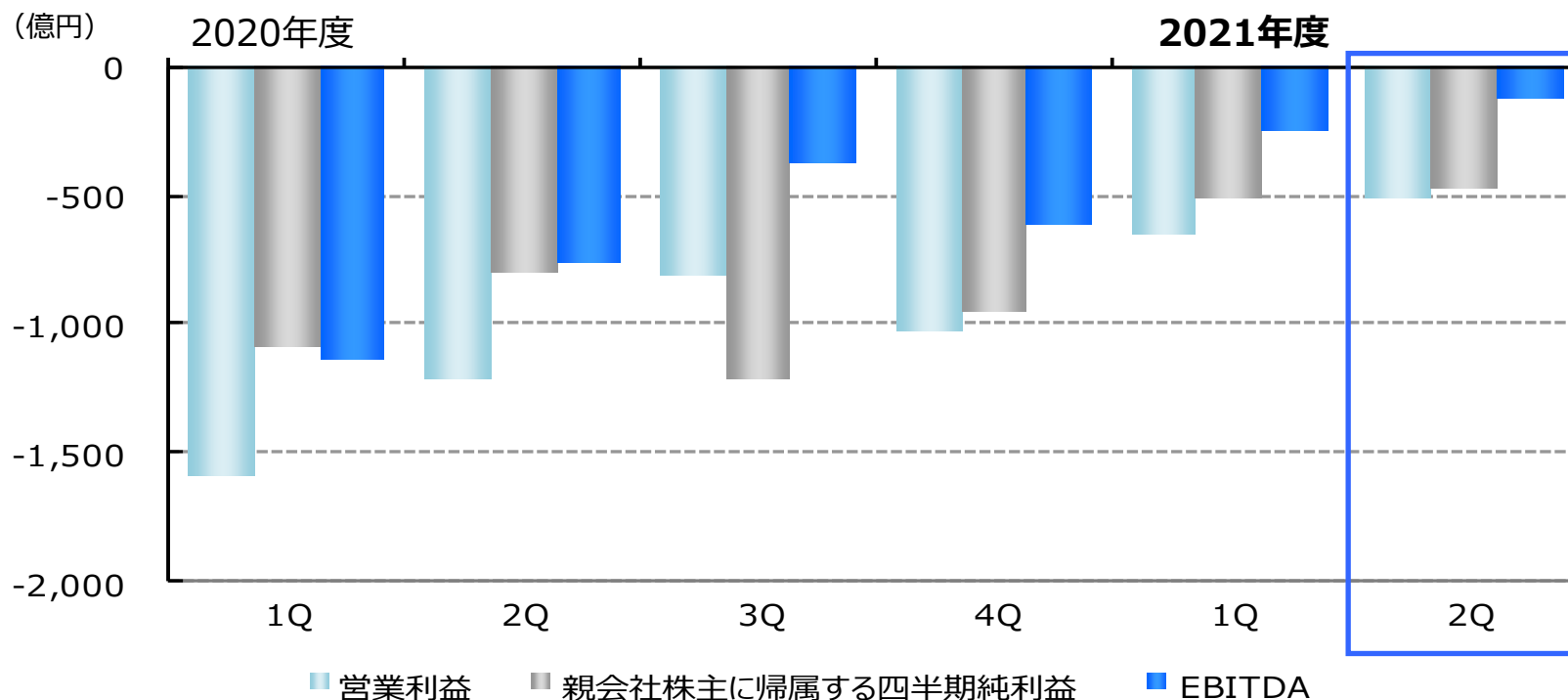
当第2四半期と前年度各四半期の業績比較

【2021年度 第2四半期 累計 (連結)】

- 営業利益 : $\Delta 1,160$ 億円 (前年同期比 + 1,649億円)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : $\Delta 988$ 億円 (同 + 896億円)
- EBITDA : $\Delta 375$ 億円 (同 + 1,532億円)

【第2四半期 (7-9月期) (連結)】

- 営業利益 : $\Delta 513$ 億円
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : $\Delta 476$ 億円
- EBITDA : $\Delta 124$ 億円



経営成績

(億円)	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年差	FY2021 第2四半期	前年差
売上高	2,918	4,311	+ 1,392	2,322	+ 619
営業費用	5,727	5,471	△ 256	2,836	△ 85
営業利益	△ 2,809	△ 1,160	+ 1,649	△ 513	+ 704
営業利益率 (%)	-	-	-	-	-
営業外損益	122	4	△ 117	△ 3	△ 100
経常利益	△ 2,686	△ 1,155	+ 1,531	△ 517	+ 603
特別損益	7	△ 58	△ 65	△ 58	△ 61
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 1,884	△ 988	+ 896	△ 476	+ 320
四半期純利益	△ 1,911	△ 977	+ 933	△ 473	+ 334
その他包括利益	137	60	△ 77	35	+ 63
包括利益	△ 1,773	△ 917	+ 856	△ 438	+ 397

財政状態

(億円)	FY2020 期末 *4	FY2021 第2四半期末	前年度 期末差 *5
総資産	32,078 (32,452)	30,800	△ 1,278 (△ 1,652)
自己資本	10,072 (8,925)	7,996	△ 2,075 (△ 928)
自己資本比率(%)	31.4 (27.5)	26.0	△ 5.4pt (△ 1.5pt)
有利子負債残高	16,554	16,368	△ 186
D/Eレシオ (倍)	1.6 (1.9)	2.0	+ 0.4 (+ 0.2)
手元流動性資金 *1	9,657	8,208	△ 1,448
純有利子負債残高 *2	6,897	8,159	+ 1,261
ネットD/Eレシオ (倍) *3	0.7 (0.8)	1.0	+ 0.3 (+ 0.2)

*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性

*3 ネットD/Eレシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

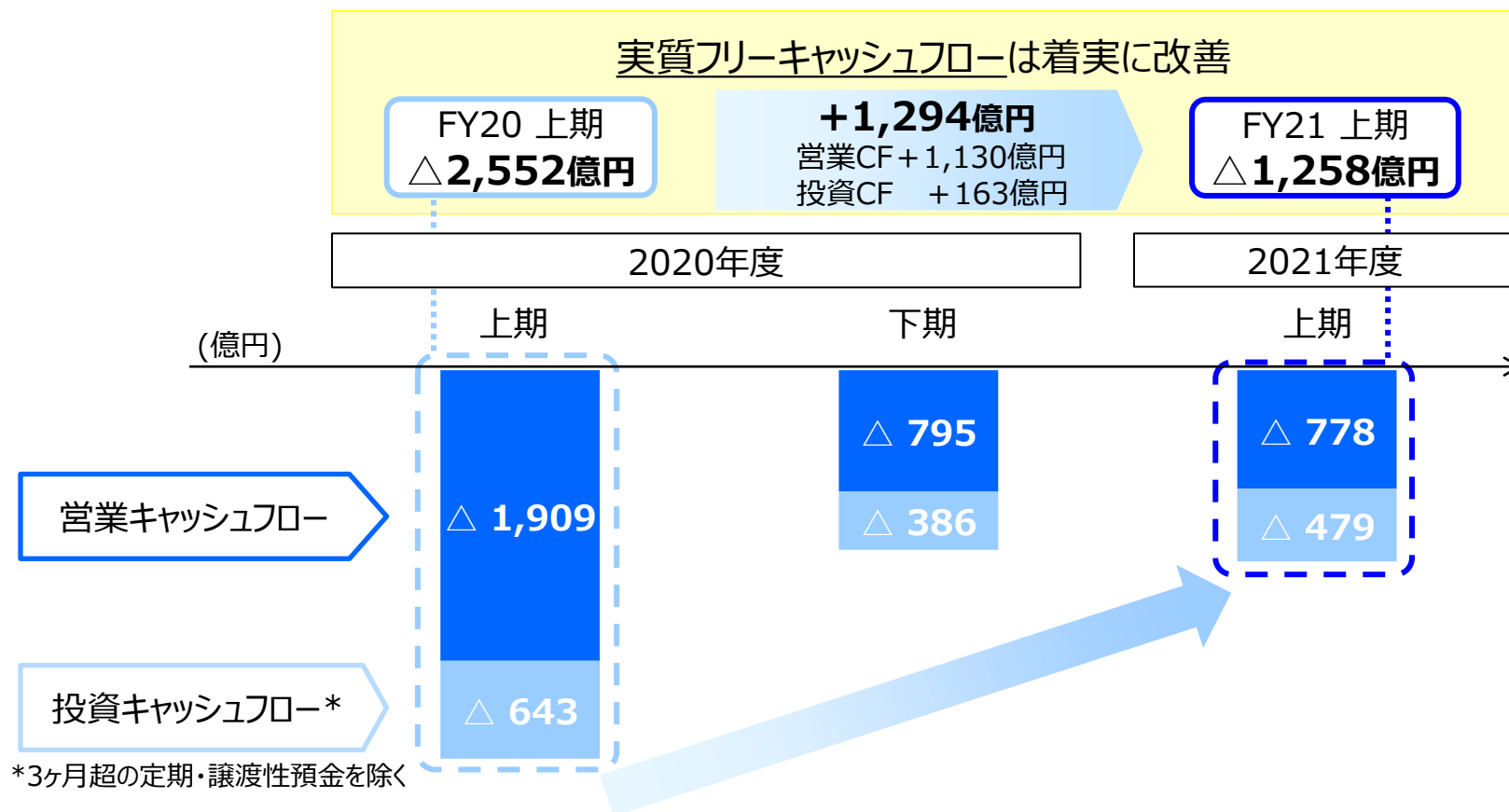
*4 カッコ内は収益認識基準を適用後のFY2021期首数値

*5 カッコ内は収益認識基準を適用後のFY2021期首数値との差

キャッシュフロー

(億円)	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	△ 1,909	△ 778	+ 1,130
投資キャッシュフロー	372	2,083	+ 1,711
財務キャッシュフロー	4,694	△ 191	△ 4,885
現金及び現金同等物の増減額	3,153	1,113	△ 2,039
現金及び現金同等物の期首残高	1,359	3,703	} + 1,113
現金及び現金同等物の期末残高	4,510	4,817	
減価償却費	901	784	△ 116
設備投資額（固定資産のみ）	807	804	△ 2
実質フリーキャッシュフロー （3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く）	△ 2,552	△ 1,258	+ 1,294
EBITDA（営業利益＋減価償却費）	△ 1,908	△ 375	+ 1,532
EBITDAマージン（%）	-	-	-

【参考】実質フリーキャッシュフローの推移



[参考]

緊急事態宣言・
まん延防止等重点措置
発出日数（東京都）

49日間

73日間

172日間

セグメント別実績

(億円)		FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年差	FY2021 第2四半期	前年差
売上高	航空事業	2,367	3,702	+ 1,335	2,001	+ 587
	航空関連事業	1,198	976	△ 221	443	△ 156
	旅行事業	138	196	+ 58	104	△ 2
	商社事業	382	383	+ 0	191	+ 6
	その他	185	174	△ 10	89	△ 3
	調整額	△ 1,353	△ 1,123	+ 230	△ 508	+ 188
	合計（連結）	2,918	4,311	+ 1,392	2,322	+ 619
営業利益	航空事業	△ 2,777	△ 1,137	+ 1,640	△ 461	+ 778
	航空関連事業	87	16	△ 70	△ 34	△ 113
	旅行事業	△ 40	△ 1	+ 38	△ 0	+ 12
	商社事業	△ 28	0	+ 28	1	+ 16
	その他	8	6	△ 1	3	+ 1
	調整額	△ 59	△ 44	+ 14	△ 22	+ 9
	合計（連結）	△ 2,809	△ 1,160	+ 1,649	△ 513	+ 704

Intentionally Left Blank

収入・費用

(億円)		FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年差	FY2021 第2四半期	前年差
売上高	ANA 国際旅客	196	304	+ 107	174	+ 73
	ANA 国内旅客	789	1,118	+ 329	616	+ 51
	ANA 貨物郵便	615	1,541	+ 925	805	+ 489
	ANA その他	681	607	△ 73	313	△ 50
	LCC	84	130	+ 46	91	+ 23
	合計	2,367	3,702	+ 1,335	2,001	+ 587
営業費用	燃油費・燃料税	413	802	+ 389	437	+ 177
	空港使用料	187	193	+ 6	103	△ 10
	航空機材賃借費	527	562	+ 35	295	+ 26
	減価償却費	864	700	△ 163	347	△ 84
	整備部品・外注費	601	395	△ 205	205	△ 116
	人件費	828	761	△ 66	384	△ 20
	販売費	194	119	△ 74	61	△ 31
	外部委託費	945	814	△ 130	359	△ 111
	その他	583	488	△ 95	268	△ 19
	合計	5,145	4,840	△ 305	2,462	△ 191
営業利益	営業利益	△ 2,777	△ 1,137	+ 1,640	△ 461	+ 778
	EBITDA (営業利益+減価償却費)	△ 1,912	△ 436	+ 1,476	△ 113	+ 693
	EBITDAマージン (%)	-	-	-	-	-

営業利益 増減要因

(億円)

FY2020 1H

営業利益

FY2021 1H

営業利益

受託整備・ハンドリング、
マイル・カード収入 等営業費用
△305営業利益
+1,640その他
(コスト削減施策
の効果を含む)

△2,777

ANA
貨物郵便
+925ANA
その他
△73LCC
+46売上高
+1,335収入連動
△74燃油費
燃料税
+389運航連動
+69

△689

ANA
国際旅客
+107ANA
国内旅客
+329販売費、機内サービス費
地上サービス費減価償却費、整備費
人件費、外部委託費
機材賃借費(コードシェア
費以外)、その他空港使用料、コードシェア費
乗務旅費

ANA国際旅客

	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年比(%)	FY2021 第2四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	5,426	9,433	+ 73.8	4,919	+ 60.7
旅客キロ（百万） *1	1,311	2,247	+ 71.3	1,355	+ 95.9
旅客数（千人） *1	193	327	+ 69.1	196	+ 92.0
座席利用率（%） *1	24.2	23.8 △ 0.3pt*2		27.6	+ 4.9pt*2
旅客収入（億円） *1	196	304	+ 54.9	174	+ 72.2
ユニットレベニュー（円） *1 （旅客収入／座席キロ）	3.6	3.2 △ 10.9		3.5	+ 7.2
イールド（円） *1 （旅客収入／旅客キロ）	15.0	13.5 △ 9.6		12.9	△ 12.1
単価（円） *1 （旅客収入／旅客数）	101,259	92,784 △ 8.4		88,791	△ 10.3

*1 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度実績は特典航空券利用旅客を含む

*2 座席利用率のみ前年差

ANA国内旅客

	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年比(%)	FY2021 第2四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	11,789	15,159	+ 28.6	8,179	+ 4.2
旅客キロ（百万）*1	4,284	6,635	+ 54.9	3,654	+ 17.6
旅客数（千人）*1	4,673	7,140	+ 52.8	3,940	+ 16.1
座席利用率（%）*1	36.3	43.8 + 7.4pt*2		44.7 + 5.1pt*2	
旅客収入（億円）*1	789	1,118	+ 41.7	616	+ 9.2
ユニットレベニュー（円）*1 （旅客収入／座席キロ）	6.7	7.4	+ 10.2	7.5	+ 4.8
イールド（円）*1 （旅客収入／旅客キロ）	18.4	16.9	△ 8.5	16.9	△ 7.1
単価（円）*1 （旅客収入／旅客数）	16,899	15,670	△ 7.3	15,656	△ 6.0

*1 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度実績は特典航空券利用旅客を含む

*2 座席利用率のみ前年差

ANA国際貨物（ベリー＋フレイター）

	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年比(%)	FY2021 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	1,559	3,388	+ 117.2	1,735	+ 99.5
有償貨物トンキロ（百万）	1,047	2,516	+ 140.3	1,282	+ 115.4
貨物輸送重量（千トン）	227	476	+ 109.0	243	+ 88.5
貨物重量利用率（%）	67.1	74.3	+ 7.1pt*1	73.9	+ 5.5pt*1
貨物収入（億円）	508	1,383	+ 172.4	723	+ 185.3
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	32.6	40.8	+ 25.4	41.7	+ 43.0
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	48.5	55.0	+ 13.4	56.4	+ 32.5
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	223	291	+ 30.3	298	+ 51.3

*1 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国際貨物（フレイターのみ）

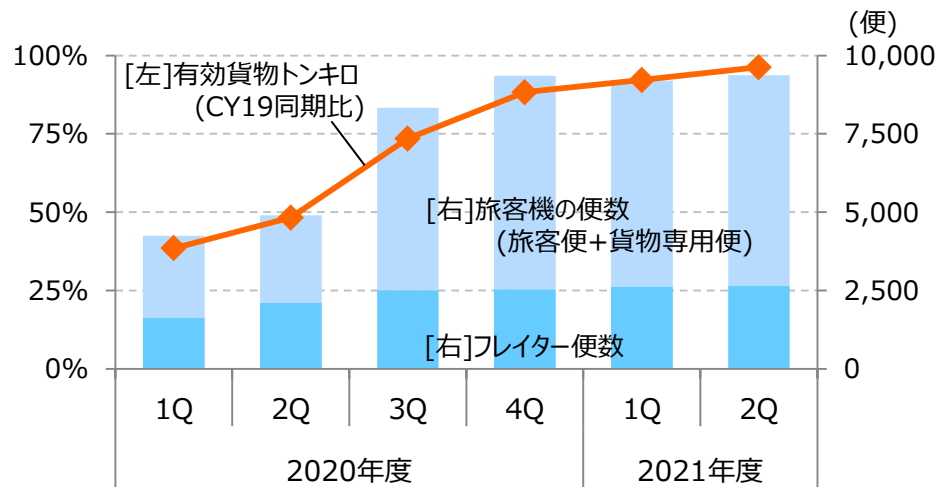
本表のデータは、P.29記載実績の内数

	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年比(%)	FY2021 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	774	1,156	+ 49.4	587	+ 38.7
有償貨物トンキロ（百万）	512	810	+ 58.1	416	+ 45.3
貨物輸送重量（千トン）	133	204	+ 52.9	105	+ 36.7
貨物重量利用率（%）	66.2	70.1	+ 3.8pt*1	70.9	+ 3.2pt*1
貨物収入（億円）	252	507	+ 101.4	272	+ 116.7
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	32.6	43.9	+ 34.8	46.4	+ 56.2
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	49.2	62.7	+ 27.4	65.4	+ 49.2
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	188	248	+ 31.7	259	+ 58.5

*1 貨物重量利用率のみ前年差

国際貨物の動向

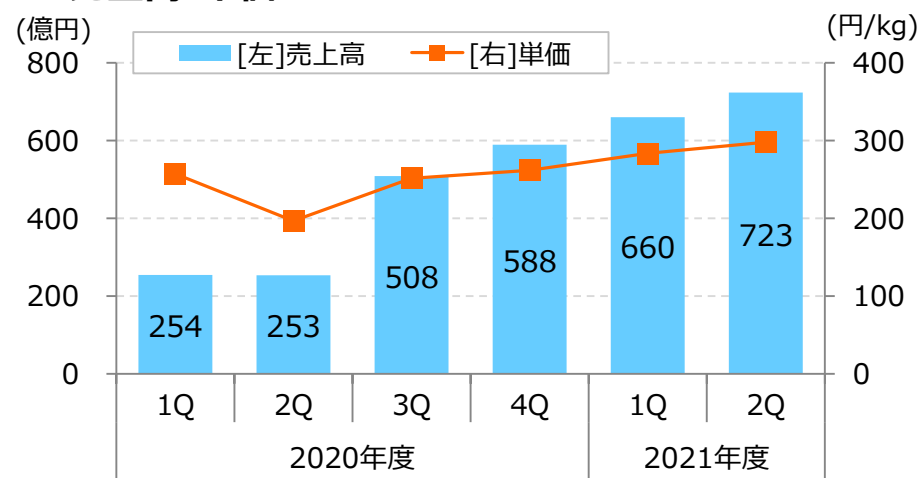
1. 生産量



- 1) フレイター：就航都市を拡大しながら稼働率を向上
- 2) 旅客機：貨物需要の高い路線を積極的に運航

→ 生産量は概ねコロナ前の水準に回復

2. 売上高・単価



- 1) 売上高：過去最高を更新
['19 Q2] 249億円 → ['21 Q2] 723億円(約2.9倍)
- 2) 単価：需給逼迫が継続、高単価貨物を優先して獲得
['19 Q2] 114円 → ['21 Q2] 298円(約2.6倍)

→ 単価上昇が寄与、売上高はコロナ前比で大幅に増加

国際貨物事業の収益性は着実に向上

ANA国内貨物

	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年比(%)	FY2021 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	294	437	+ 48.7	241	+ 20.8
有償貨物トンキロ（百万）	103	136	+ 31.7	71	+ 11.5
貨物輸送重量（千トン）	93	120	+ 29.1	63	+ 9.6
貨物重量利用率（%）	35.3	31.3	△ 4.0pt*1	29.6	△ 2.5pt*1
貨物収入（億円）	86	121	+ 40.1	61	+ 22.8
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	29.4	27.7	△ 5.8	25.7	+ 1.7
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	83.1	88.4	+ 6.4	86.7	+ 10.1
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	93	101	+ 8.5	98	+ 12.0

*1 貨物重量利用率のみ前年差

LCC (Peach Aviation)

	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年比(%)	FY2021 第2四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	2,090	3,254	+ 55.7	2,013	+ 31.5
旅客キロ（百万）	922	1,777	+ 92.8	1,197	+ 65.3
旅客数（千人）	817	1,554	+ 90.2	1,056	+ 64.2
座席利用率（%）	44.1	54.6 + 10.5pt*1		59.5 + 12.2pt*1	
売上高（億円）*2	84	130	+ 54.6	91	+ 35.5
ユニットレベニュー（円） （売上高／座席キロ）	4.0	4.0	△ 0.7	4.5	+ 3.0
イールド（円） （売上高／旅客キロ）	9.2	7.4	△ 19.8	7.6	△ 18.0
単価（円） （売上高／旅客数）	10,359	8,422	△ 18.7	8,627	△ 17.5

*1 座席利用率のみ前年差

*2 売上高に付帯収入を含む

航空事業 コロナ前との対比

FY2021 第2四半期実績

2019年度比(%) ^{*1}	ANA国際旅客		ANA国内旅客		LCC ^{*2}	
	FY2021 第2四半期累計	FY2021 第2四半期	FY2021 第2四半期累計	FY2021 第2四半期	FY2021 第2四半期累計	FY2021 第2四半期
座席キロ	△ 73.0	△ 72.3	△ 49.9	△ 47.1	△ 44.4	△ 32.5
旅客キロ ^{*3}	△ 91.6	△ 90.2	△ 68.8	△ 67.9	△ 65.1	△ 54.4
旅客数 ^{*3}	△ 93.7	△ 92.6	△ 69.1	△ 67.9	△ 61.1	△ 48.6

2019年度比(%) ^{*1}	ANA国際貨物		ANA国内貨物	
	FY2021 第2四半期累計	FY2021 第2四半期	FY2021 第2四半期累計	FY2021 第2四半期
有効貨物トンキロ	△ 5.8	△ 3.7	△ 51.2	△ 48.4
有償貨物トンキロ	+ 20.9	+ 22.4	△ 28.7	△ 27.6
貨物輸送重量	+ 9.9	+ 10.7	△ 35.2	△ 34.4

^{*1} コロナ前(2019年4月～9月実績)との比較

^{*2} 2019年度実績はPeach Aviationとバニラエアの合計

^{*3} 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度実績は特典航空券利用旅客を含む

航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年差	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年差
売上高	1,198	976	△ 221	138	196	+ 58
営業利益	87	16	△ 70	△ 40	△ 1	+ 38
減価償却費	25	24	△ 0	2	0	△ 1
EBITDA (営業利益+減価償却費)	112	41	△ 71	△ 37	△ 0	+ 36
EBITDAマージン(%)	9.4	4.3	△ 5.2pt	-	-	-

	商社事業			その他		
	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年差	FY2020 第2四半期累計	FY2021 第2四半期累計	前年差
売上高	382	383	+ 0	185	174	△ 10
営業利益	△ 28	0	+ 28	8	6	△ 1
減価償却費	6	5	△ 0	1	2	+ 1
EBITDA (営業利益+減価償却費)	△ 21	6	+ 27	10	9	△ 0
EBITDAマージン(%)	-	1.6	-	5.6	5.5	△ 0.2pt

Intentionally Left Blank

3. 2021年度 通期業績予想（詳細）



連結業績予想

*1 2021年4月30日開示の業績予想

(億円)	FY2020	FY2021 (修正予想)	前年差	FY2021 当初予想*1
売上高	7,286	10,600	+ 3,313	13,800
営業費用	11,934	11,850	△ 84	13,520
営業利益	△ 4,647	△ 1,250	+ 3,397	280
営業利益率(%)	—	—	—	2.0
経常利益	△ 4,513	△ 1,400	+ 3,113	50
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 4,046	△ 1,000	+ 3,046	35

市況	FY2021 当初前提	FY2021 上期実績	FY2021 下期前提
為替レート (円/US\$)	105	109.8	110
ドバイ原油 (US\$/bbl)	60	69.4	75
シンガポールケロシン (US\$/bbl)	65	74.3	80

セグメント別 計画

(億円)		FY2020	FY2021 (修正予想)	前年差	FY2021 当初予想*1
売上高	航空事業	6,040	9,170	+ 3,129	12,040
	航空関連事業	2,221	2,050	△ 171	2,150
	旅行事業	450	735	+ 284	1,110
	商社事業	799	855	+ 55	980
	その他	366	375	+ 8	380
	調整額	△ 2,591	△ 2,585	+ 6	△ 2,860
	合計 (連結)	7,286	10,600	+ 3,313	13,800
営業利益	航空事業	△ 4,478	△ 1,155	+ 3,323	345
	航空関連事業	36	20	△ 16	20
	旅行事業	△ 50	△ 15	+ 35	0
	商社事業	△ 42	5	+ 47	15
	その他	△ 0	0	+ 0	5
	調整額	△ 111	△ 105	+ 6	△ 105
	合計 (連結)	△ 4,647	△ 1,250	+ 3,397	280

*1 2021年4月30日開示の業績予想

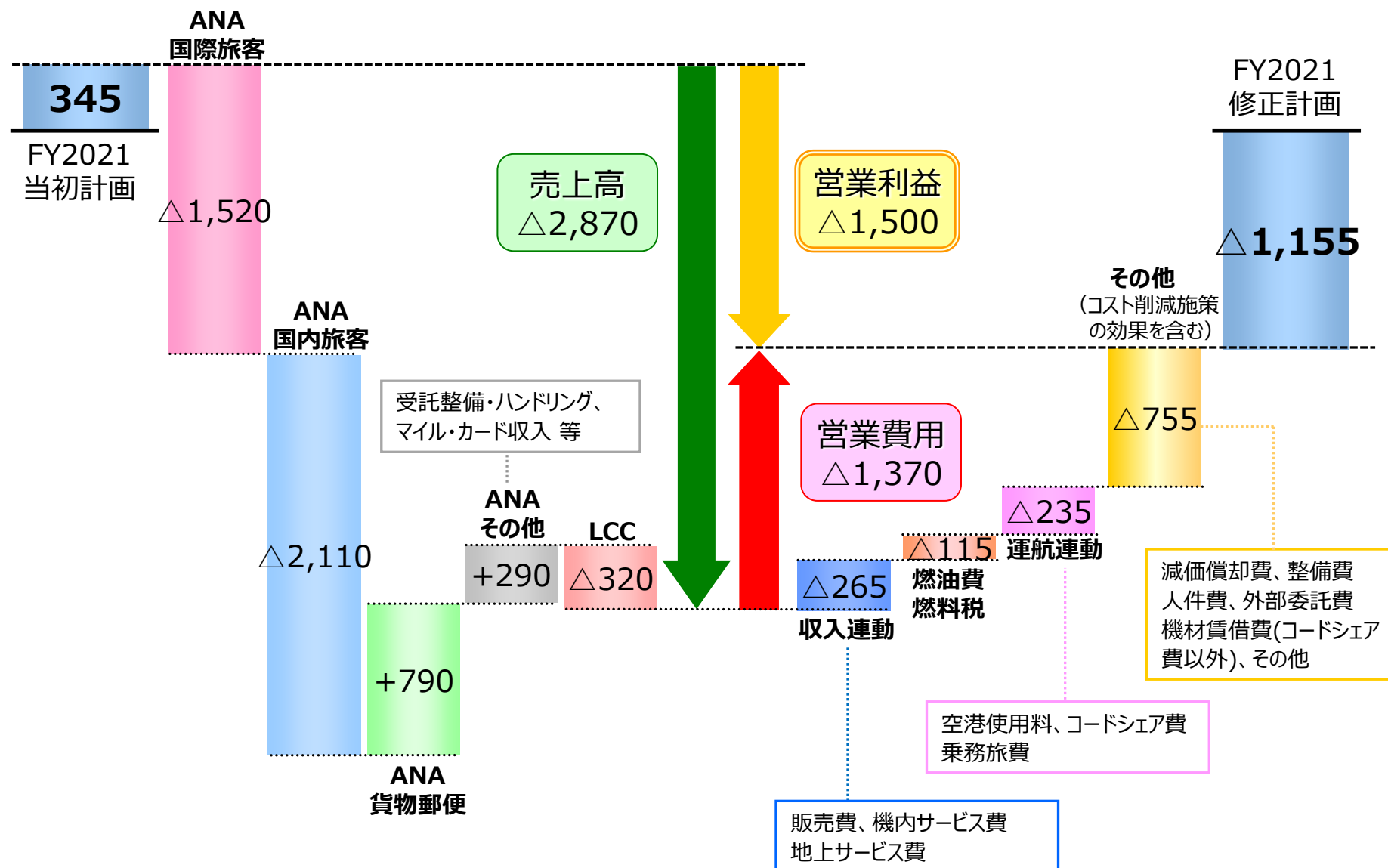
航空事業 売上高・営業費用 計画

(億円)		FY2020	FY2021 (修正予想)	前年差	FY2021 当初予想*1
売上高	国際旅客	447	890	+ 442	2,410
	国内旅客	2,031	3,290	+ 1,258	5,400
	貨物郵便	1,868	3,070	+ 1,201	2,280
	その他	1,472	1,450	△ 22	1,160
	LCC	220	470	+ 249	790
	合計	6,040	9,170	+ 3,129	12,040
営業費用	燃油費・燃料税	1,096	1,870	+ 773	1,985
	燃油費・燃料税 以外	9,422	8,455	△ 967	9,710
	合計	10,519	10,325	△ 194	11,695
営業利益	営業利益	△ 4,478	△ 1,155	+ 3,323	345

*1 2021年4月30日開示の業績予想

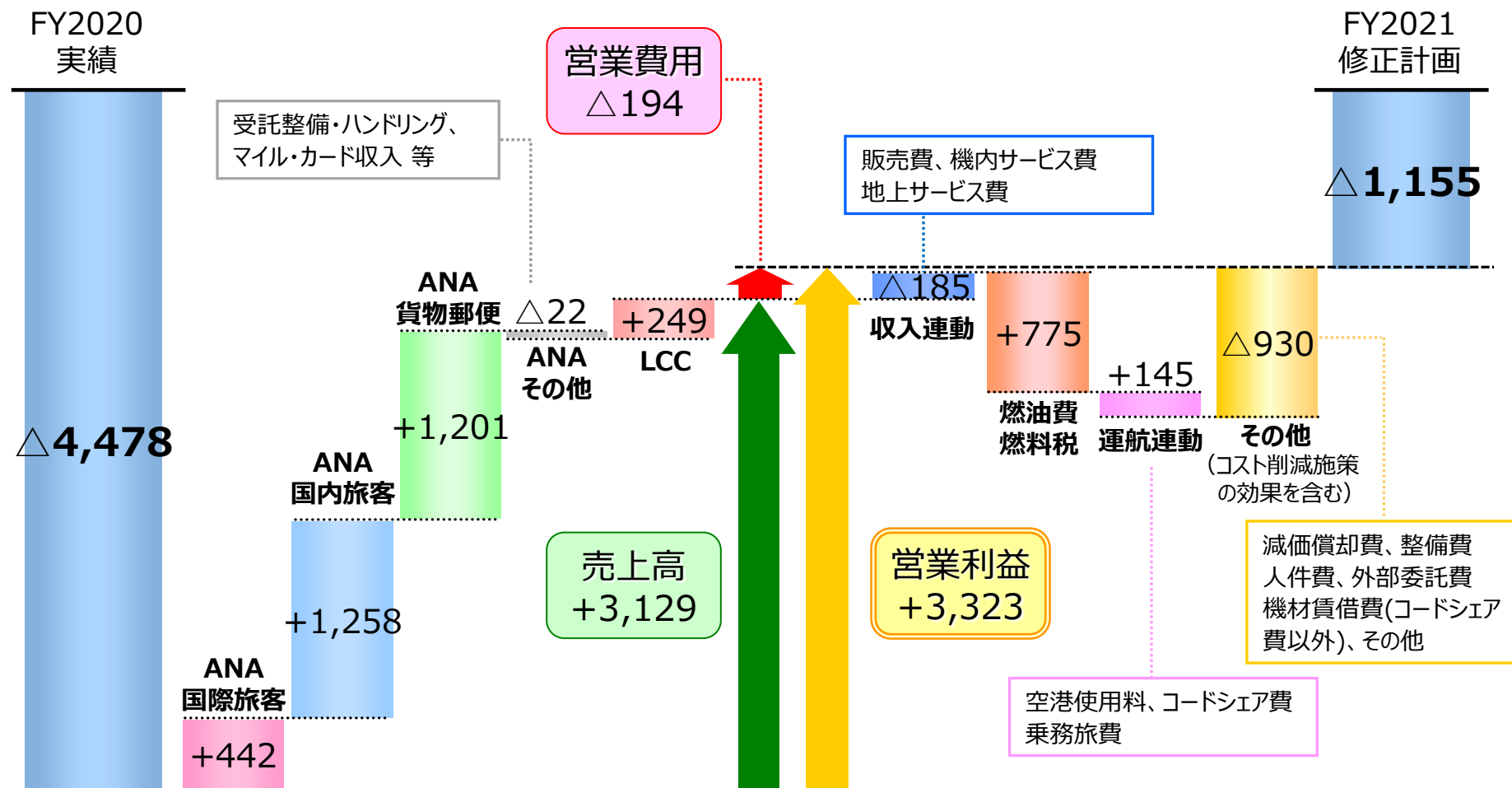
航空事業 営業利益（当初計画との差異）

(億円)



航空事業 営業利益（前年度との差異）

(億円)



航空事業 計画前提

計画前提 (ANA旅客事業)

		国際旅客			国内旅客		
		上期(実績)	下期(計画)	通期(予想)	上期(実績)	下期(計画)	通期(予想)
座席キロ	前年比 (CY19比)*1	+ 73.8 (△ 73.0)	+ 46.2 (△ 61.3)	+ 56.6 (△ 67.2)	+ 28.6 (△ 49.9)	+ 37.1 (△ 28.8)	+ 33.4 (△ 39.5)
旅客キロ *2	前年比 (CY19比)*1	+ 71.3 (△ 91.6)	+ 177.3 (△ 83.8)	+ 128.4 (△ 87.8)	+ 54.9 (△ 68.8)	+ 82.3 (△ 34.9)	+ 72.1 (△ 52.2)
旅客数 *2	前年比 (CY19比)*1	+ 69.1 (△ 93.7)	+ 178.9 (△ 87.0)	+ 129.1 (△ 90.4)	+ 52.8 (△ 69.1)	+ 82.6 (△ 34.3)	+ 71.6 (△ 52.0)
座席利用率(%) *2		23.8	32.1	28.6	43.8	64.1	55.5
ユニットレベニュー(円) *2 (旅客収入/座席キロ)		3.2	4.4	3.9	7.4	10.5	9.2
イールド(円) *2 (旅客収入/旅客キロ)		13.5	13.8	13.7	16.9	16.3	16.5
単価(円) *2 (旅客収入/旅客数)		92,784	89,578	90,651	15,670	14,854	15,122

*1 コロナ前(2019年1月～12月実績)との比較

*2 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度は特典航空券利用旅客を含む

航空事業 計画前提

計画前提（ANA貨物事業）

	国際貨物			国内貨物		
	上期(実績)	下期(計画)	通期(予想)	上期(実績)	下期(計画)	通期(予想)
有効貨物トンキロ 前年比 (CY19比)*1	+ 117.2 (△ 5.8)	+ 14.1 (△ 6.4)	+ 49.1 (△ 6.1)	+ 48.7 (△ 51.2)	+ 41.7 (△ 30.8)	+ 44.6 (△ 41.3)
有償貨物トンキロ 前年比 (CY19比)*1	+ 140.3 (+ 20.9)	+ 11.2 (+ 16.3)	+ 52.8 (+ 18.6)	+ 31.7 (△ 28.7)	+ 17.3 (△ 19.5)	+ 23.5 (△ 24.0)
貨物輸送重量 前年比 (CY19比)*1	+ 109.0 (+ 9.9)	+ 17.2 (+ 14.2)	+ 49.1 (+ 12.1)	+ 29.1 (△ 35.2)	+ 15.9 (△ 24.6)	+ 21.5 (△ 29.8)
重量利用率(%)	74.3	70.9	72.6	31.3	27.3	29.0
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	40.8	39.2	40.0	27.7	22.6	24.8
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	55.0	55.2	55.1	88.4	82.9	85.4
単価(円) (貨物収入/貨物輸送重量)	291	270	280	101	92	96

*1 コロナ前(2019年1月～12月実績)との比較

航空事業 計画前提

計画前提 (LCC事業)

(CY19実績はPeach・バニラエア合計)

		LCC		
		上期(実績)	下期(計画)	通期(予想)
座席キロ	前年比 (CY19比)*1	+ 55.7 (△ 44.4)	+ 77.7 (△ 11.8)	+ 68.3 (△ 28.3)
旅客キロ	前年比 (CY19比)*1	+ 92.8 (△ 65.1)	+ 192.1 (△ 10.6)	+ 154.0 (△ 38.5)
旅客数	前年比 (CY19比)*1	+ 90.2 (△ 61.1)	+ 200.0 (△ 1.1)	+ 156.9 (△ 31.7)
座席利用率(%)		54.6	85.7	73.5
ユニットレベニュー(円) (売上高/座席キロ)		4.0	6.7	5.6
イールド(円) (売上高/旅客キロ)		7.4	7.8	7.7
単価(円) (売上高/旅客数)		8,422	8,875	8,743

*1 コロナ前(2019年1月～12月実績)との比較

航空機数

	合計					退役済み機材*1を除く		
	FY2020 期末	FY2021 第2四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数	FY2020 期末	FY2021 第2四半期末	前年度 期末差
Airbus A380-800	2	2	－	2	－	2	2	－
Boeing 777-300/-300ER	30	20	△ 10	11	9	20	20	－
Boeing 777-200/-200ER	14	14	－	11	3	12	12	－
Boeing 777-F	2	2	－	2	－	2	2	－
Boeing 787-10	2	2	－	2	－	2	2	－
Boeing 787-9	36	38	＋ 2	32	6	36	38	＋ 2
Boeing 787-8	36	36	－	31	5	36	36	－
Boeing 767-300/-300ER	21	19	△ 2	19	－	20	19	△ 1
Boeing 767-300F/-300BCF	9	9	－	6	3	9	9	－
Airbus A321-200neo	17	20	＋ 3	－	20	17	20	＋ 3
Airbus A321-200	4	4	－	－	4	4	4	－
Airbus A320-200neo	11	11	－	11	－	11	11	－
Airbus A320-200	3	3	－	－	3	3	0	△ 3
Boeing 737-800	39	39	－	24	15	39	39	－
Boeing 737-700	5	0	△ 5	－	－	4	0	△ 4
De Havilland Canada DASH 8-400	24	24	－	24	－	24	24	－
ANA 計	255	243	△ 12	175	68	241	238	△ 3
Airbus A320-200neo	3	4	＋ 1	－	4	3	4	＋ 1
Airbus A320-200	35	32	△ 3	－	32	30	29	△ 1
Peach Aviation 計	38	36	△ 2	－	36	33	33	－
グループ 計	293	279	△ 14	175	104	274	271	△ 3

*1 退役済み・売却待ちまたはリース返却待ちの機材

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます
私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、お客様満足と価値創造で
世界のリーディングエアライングループを目指します

グループ行動指針
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 ➡ I R 資料室 ➡ 決算説明会資料

A N Aホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : ir@anahd.co.jp